

機関番号：14301

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20320079

研究課題名 (和文) 自律学習環境における学習者によって認知された外国語学習の「コスト」に関する研究

研究課題名 (英文) Cost of the foreign language learning perceived by learners in the autonomous learning environment

研究代表者

大木 充 (OHKI MITSURU)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号：60129947

研究成果の概要 (和文)：

本研究の目的は、期待・価値理論の枠組みで「課題に対して学習者が認知するコスト以外の3つの価値 (重要性・楽しさ・実用性) を高めれば、相対的にコストを小さくすることができ、動機づけを維持し、強化することができる」という仮説を検証することである。国内外でのアンケートの結果、日本の学習者はコストのスコアが高く、その他の価値のスコアが低いことが明らかになった。また、「重要性」を認知させるには、開発した教材を用いるだけでは、不十分で、社会的要因に注目する必要があることも明らかになった。

研究成果の概要 (英文)：

The purpose of this study is to test in the framework of the expectancy-value theory the hypothesis that the increase of the values (*importance, interest, utility*) of language learning reduces relatively *cost* and that the motivation is maintained and reinforced. Results of the survey in Japan and foreign countries show that for the Japanese learner of French, the score of *cost* is high while the scores of the other values are low. Our study reveals also that to make learners recognize the *importance* of French learning we need to focus on its social factors.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2010年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：外国語教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育(1)

キーワード：動機づけ、自律学習、ICT、期待・価値理論、コスト、ヨーロッパ言語共通参照枠、複言語主義教育、フランス語教育

1. 研究開始当初の背景

ICT を用いた外国語の自律学習に関して、教育の実施者の観点からコストパフォーマンスが論じられることはあっても、学習者側のコスト、すなわち授業時間外でなければならない努力量、他のことをする機会の損失、成否に関する不安などが忘れられている。既習の英語に比べて、

大学で初めて学習する外国語は学習者のコストがもともと高く、ましてその外国語を授業外でも自律学習するとなるとコストはさらに高くなることが予想される。そこで、動機づけ理論のひとつ「期待・価値」モデルに基づいて、「課題に対して学習者が認知するコスト以外の3つの価値 (「重要性」、「知的な楽しさ」、「実用性」) を高め

れば、相対的にコストを小さくすることができ、動機づけを維持し、強化することができる」という仮説を立て、その仮説に基づいて教材を作成、実際に授業で用いて、仮説を検証することにした。

2. 研究の目的

(1) フランス語学習者が認知するコストと動機づけの推移に関して、国内外における異なる学習環境で調査し、日本の自律学習環境における学習者の特徴、特に学習者が認知する「コスト」を明らかにする。

(2) フランス語文法学習およびフランス語学習一般に対して、3つの価値のなかでも特に「重要性」を学習者が認知できるようなCALL教材(DVD)を開発する。

(3) 開発した教材を実際に用いて自律学習している学習者に対して、質問紙を用いて学習者が認知するコストと動機づけの推移に関する調査をし、仮説の検証をする。また、動機づけと成績との相関関係についても検証する。

3. 研究の方法

(1) 国内外の主にフランス語学習者に対して年2回のアンケート調査を実施する。仮説を検証するための基礎研究として、コストを含む4つの価値に対する認知および動機づけについてフランス語を自律学習する京都大学の学生約300名に対してアンケート調査をする。日本人学習者、京都大学学生、自律学習、フランス語学習などのバイアスを除くために次のような学習者も被験者とする:①フランス語を学習している外国の学生;②フランス語を学習している北海道大学の学生。

(2) 世界中のフランス語教育者が集まる学会に参加して、参加者に外国語を学習することの意義に関するインタビューをし、DVDに収録する。DVDを編集して、日本のフランス語学習者がフランス語学習の意義について考えるための教材を作成する。

4. 研究成果

国内外のアンケート調査により、次の事実が明らかになった。

(1) 自律学習環境下だからフランス語学習のコストが特に高いとは言えない。

(2) フランス語学習は、「実用価値」は低いのに、「コスト」は高い。それに対して、英語学習は「実用価値」が高く、「コスト」が低い。また、韓国、台湾も含めて海外のフランス語学習者にとっては、「実用価値」のほうが「コスト」よりも高い。

(3) フランス語学習の動機づけは、英語学習に対する動機づけよりも低い、しかもフランス語学習の動機づけは、時間の経過とともに低くなるが、英語では低くならない;

(4) 日本の学生のフランス語学習に対する動機づけは、調査対象のオーストラリア、韓国、台湾、フランス(留学生)の学習者のなかでもっとも低い。

以上をまとめると、問題なのは自律学習のコストにあたる影響ではなくて、むしろ日本の学習者はコスト以外の動機づけ変数が低いことである。そこで、フランス語学習の「重要性」が理解できるようなDVD教材とフランス語の文法学習を通じてフランス語学習の「重要性」が理解できるような文法の教科書とポートフォリオも開発した。そのような教材を用いて授業をおこなった結果、動機づけと成績との正の相関は明らかになったが、それが開発した教材によるものかどうかは特定できなかった。また、動機づけ変数のひとつ「重要性」を認知させるには、開発した教材を用いるだけでは、十分に動機づけを強化することが困難であることも同時に明らかになった。動機づけをさらに強化するためには、今後は、社会的要因(社会環境、家庭環境、教育環境)に注目する必要があるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計15件)

- ① Mitsuru Ohki et Françoise Grauby, L'impact des représentations du français sur la motivation : étude comparative entre le Japon et l'Australie, Actes du II^e congrès de la commission Asie-pacifique de la FIPF, 査読有. 掲載確定
- ② Mitsuru Ohki, Contextualiser l'apprentissage autodirigé dans l'enseignement supérieur au Japon, *Le Français dans le monde*, numéro spécial, 査読有. 掲載確定
- ③ Jean-François Graziani, Villepin à Kyoto : regards croisés sur l'universalisme et la diversité, *Croisements. Revue francophone des Sciences humaines en Asie de l'Est*, 査読有. 掲載確定
- ④ Noriyuki Nishiyama, Contextualiser le CE CR en Asie du Nord-Est, un rêve ou une source d'inspiration ?, *Journal of European Languages* (Dayeh university), 査読無, vol. 3, 2010, 1-12.
- ⑤ 大木 充, e-Learning における紙媒体の教材の必要性, e-Learning 教育研究, 査読有, 第5巻, 2010, 20-30.
- ⑥ Mitsuru Ohki, Stimuler la motivation de l'apprenant japonais de français en développant son identité francophone, Actes du XII^e congrès mondial de la FIPF, 査読有, 2010, 1607-1612.

- ⑦ Mitsuru Ohki, Enseignement-apprentissage du français au Japon, Compte-rendu des deuxième assises du français en Asie du nord-est, 査読有, 2010, 43-45.
- ⑧ Mitsuru Ohki, L'auto-évaluation pour développer l'autonomie, la motivation et la compétence linguistique : étude de cas pour l'enseignement de la grammaire française dans une université japonaise, *Nouvelles approches de l'évaluation des compétences langagières et (inter-) culturelles dans l'enseignement supérieur*, 査読有, 2010, 267-282.
- ⑨ Jean-François Graziani, La diffusion du français au Japon à travers le *Bulletin de l'Alliance française (1884-1914)*, *Revue japonaise de didactique du français*, 査読有, 2010, Vol. 5-2, 22-37.
- ⑩ Mitsuru Ohki, Shinya Hori, Noriyuki Nishiyama, Akira Tajino, Les causes principales de la baisse de la motivation chez les apprenants japonais de français, *Revue japonaise de didactique du français*, 査読有, 2009, Vol. 4-1, 71-88.
- ⑪ Mitsuru Ohki, Stimuler la motivation de l'apprenant japonais de français en contextualisant l'enseignement au Japon, *La motivation dans l'enseignement de langue : Comment promouvoir le goût pour le français en Asie de l'Est ?*, 査読無, 2009, 90-112.
- ⑫ Noriyuki Nishiyama, La décontextualisation d'une méthode de langues et ses avatars : la méthode Gouin importée à Taiwan sous la domination coloniale japonaise pour la diffusion du japonais, *Recherches et application, Le français dans le monde*, 査読有, 2009, Vol. 46, 106-115.
- ⑬ 西山教行, ヨーロッパ社会政策からみた『ヨーロッパ言語共通参照枠』と日本の第2 外国語教育の展望, ドイツ語教育, 査読有, 2009, 第14巻, 74-83.
- ⑭ Noriyuki Nishiyama, L'impact du Cadre européen commun de référence dans l'Asie du Nord-Est : pour une meilleure contextualisation du CECR, *Revue japonaise de didactique du français*, 査読有, 2009, Vol. 4-1, 54-70.
- ⑮ Noriyuki Nishiyama, Pierre Foncin, fondateur de l'Alliance française, et l'enseignement de la géographie au service de la diffusion du français au XIX^e siècle, *Revue japonaise de didactique du français*, 査読有, 2009, Vol. 4-2, 69-84.
- ① 大木 充, 外国語教育への ICTを用いた自律学習とポートフォリオの導入, 甲南大学言語教授法・カリキュラム開発研究会, 2011 年 3 月 9 日, 甲南大学.
- ② Jean-François Graziani, Le CECR (2001-2011) : motivation de l'apprenant, professionnalisation de l'enseignant et harmonisation des politiques linguistiques. L'invention d'une norme internationale pour les langues vivantes ?, 国際公開シンポジウム「ICT+自律学習+動機」, 2011 年 2 月 19 日, 北海道大学.
- ③ 西山 教行, 外国語学習・教育の動機と目的 : 社会的共通資本を手がかりとして, 国際公開シンポジウム「ICT+自律学習+動機」, 2011 年 2 月 19 日, 北海道大学.
- ④ 大木 充, ICT と自律学習と動機づけ, 国際公開シンポジウム「ICT+自律学習+動機」, 2011 年 2 月 19 日, 北海道大学.
- ⑤ Noriyuki Nishiyama, Comment concevoir la politique de contextualisation du CECR dans l'Asie du Nord-Est ?, Congrès de la commission Asie-pacifique de la FIPF, 2010 年 12 月 4 日, シドニー大学 (オーストラリア) .
- ⑥ Mitsuru Ohki, Noriyuki Nishiyama, Koh Nagano, Jean-François Graziani, Pas trop, non merci, volontiers : formation et éducation au plurilingue dans le contexte japonais, Congrès de la comission asie-pacifique de la FIPF, 2010 年 12 月 4 日, シドニー大学 (オーストラリア) .
- ⑦ Mitsuru Ohki et François Grauby, L'impact des représentations du français sur la motivation : étude comparative entre le Japon et l'Australie, Congrès de la comission asie-pacifique de la FIPF, 2010 年 12 月 4 日, シドニー大学 (オーストラリア) .
- ⑧ Mitsuru Ohki et Dong-Yeol PARK, Les objectifs et les buts de l'enseignement du français, Congrès du 40^e anniversaire de la Société Japonaise de Didactique du Français, 2010 年 11 月 7 日, 京都大学.
- ⑨ Koh Nagano, Lire le Précis du plurilinguisme et du pluriculturalisme pour répondre au défi de la contextualisation, Congrès du 40^e anniversaire de la Société Japonaise de Didactique du Français, 2010 年 11 月 6 日, 京都大学.
- ⑩ Jean-François Graziani, L'Empire de la pensée : droit français et enseignement de la langue au Japon à la fin du XIX^e siècle, Congrès du 40^e anniversaire de la Société Japonaise de Didactique du Français, 2010 年 11 月 6 日, 京都大学.
- ⑪ Noriyuki Nishiyama, Domination coloniale par l'enseignement monolingue ou

- plurilingue ?, Congrès du 40^e anniversaire de la Société Japonaise de Didactique du Français, 2010年11月6日, 京都大学.
- ⑫ 大木 充, ICT を用いた自律学習による外国語教育全体の高付加価値化, 国立7大学外国語教育連絡協議会シンポジウム, 2010年10月28日, 北海道大学.
- ⑬ 大木 充, フランス語教育におけるポートフォリオ開発: その理論的背景と効果をめぐる: *La Grammaire Active du Français* の試みを中心にして, 関西学院大学言語研究教育センター, 2010年7月24日, 関西学院大学.
- ⑭ Noriyuki Nishiyama, A quelles conditions le français est-il une langue de circulation scientifique dans le contexte mondialisé de la recherche en langues ?, COLLOQUE - PLIDAM/SOAS, 2010年6月18日, パリ (フランス) .
- ⑮ Mitsuru Ohki, Développement d'une didactique appropriée à l'apprentissage du français au Japon : stimuler la motivation par l'éducation au plurilinguisme, COLLOQUE - PLIDAM/SOAS, 2010年6月18日, パリ (フランス) .
- ⑯ 大木 充, 複数外国語を学ぶ意欲を育てるための外国語教育, 日本独文学会, 2010年5月29日, 慶応義塾大学.
- ⑰ Mitsuru Ohki, Evolution de la situation japonaise depuis les 1^{ères} Assises (2005), Deuxième assises du français en Asie du nord-est, 2010年4月2日, Fu Jen カトリック大学 (台湾)
- ⑱ 大木 充, 西山教行, フランス語の授業で日本の学生には何を教えるのがいいのか?, 第24回関西フランス語教育研究会, 2010年3月27日, 大阪日仏センター=アリアンス・フランセーズ.
- ⑲ 大木 充, e-Learning における紙媒体の教材の必要性, 第8回 e-Learning 教育学会, 2010年3月13日, 大阪日仏センター=アリアンス・フランセーズ
- ⑳ 大木 充, 『ヨーロッパ言語共通参照枠』における ICT を用いた自律学習とポートフォリオ, 北海道大学セミナー, 2010年2月12日, 北海道大学・情報基盤センター.
- ㉑ 西山教行, 『ヨーロッパ言語共通参照枠』以降の複言語・複文化主義の動向と展開: ヨーロッパ言語教育政策の新たな展開, 北海道大学セミナー, 2010年2月12日, 北海道大学・情報基盤センター.
- ㉒ Mitsuru Ohki, Les supports multimédia peuvent-ils remplacer les supports papier dans les cours de type enseignement par les TIC ?, Le 2ème Congrès régional de la Commission du Monde Arabe, 2009年12月7日, Palais de l'UNESCO (レバノン)
- ㉓ Mitsuru Ohki, Des manuels de français à l'époque coloniale : quel français enseigner aux colonisés ?, Le 2ème Congrès régional de la Commission du Monde Arabe, 2009年12月6日, Palais de l'UNESCO (レバノン)
- ㉔ 大木 充, 西山教行, 長野 督, 日本におけるフランス語教育の文脈化と動機づけ, 日本フランス語教育学会秋季大会, 2009年10月18日, 関西大学.
- ㉕ Mitsuru Ohki, Stimuler la motivation de l'apprenant japonais de français en contextualisant l'enseignement au Japon, Société Coréenne d'Enseignement de Langue et Littérature Française, 2009年10月10日, 2009年10月10日, Université féminine de Sookmyung (韓国) .
- ㉖ Noriyuki Nishiyama, Pourquoi les indigènes musulmans devaient-ils apprendre le français ? Eclaircissements sur les motivations de l'enseignement / apprentissage du français dans une société coloniale, Société Coréenne d'Enseignement de Langue et Littérature Française, 2009年10月10日, Université féminine de Sookmyung (韓国) .
- ㉗ 大木 充, ICT + 自律学習 + Portfolio, 北海道大学セミナー, 2009年6月13日, 北海道大学・情報基盤センター.
- ㉘ Mitsuru Ohki, Renforcer la motivation de l'apprenant japonais de français en contextualisant l'enseignement au Japon, 2009 欧州語文国際学術研討会, 2009年5月16日, 大葉大学 (台湾) .
- ㉙ Noriyuki Nishiyama, Contextualiser le CECR en Asie du Nord-Est ? : contribution pour un projet de Cadre commun de référence pour les langues en Asie du Nord-Est, 2009 欧州語文国際学術研討会, 2009年5月16日, 大葉大学 (台湾) .
- ㉚ 大木 充, ICT を用いた自律学習による外国語教育全体の高付加価値化, 2008年10月22日, 同志社大学.
- ㉛ Mitsuru Ohki, Stimuler la motivation de l'apprenant japonais de français à partir du développement des identités francophones, XIIe Congrès Mondial de la FIPF, 2008年7月23日, Centre des congrès (カナダ) .

[図書] (計4件)

- ① 大木 充, 京都大学学術出版会, 『多言語宣言 - なぜ英語以外の外国語を学ぶのか』, 2011, 3-19 (『ヨーロッパ言語共通参照枠』 CEFR) に学ぶ外国語学習の意義). 印刷中
- ② 西山 教行, 京都大学学術出版会, 『多言語宣言 - なぜ英語以外の外国語を学ぶのか』, 2011, 197-215 (多言語主義から複

- 言語・複文化主義へ) . 印刷中
- ③ ジャン＝フランソワ・グラズイアニ, 京都大学学術出版会, 『多言語宣言 - なぜ英語以外の外国語を学のか』, 2011, 182-196 (バベル、我が愛) . 印刷中
- ④ 大木 充, 西山 教行, ジャン＝フランソワ・グラズイアニ, 朝日出版社, 『グラメール アクティープ - 文法で複言語・複文化』, 2010, 92 p.

[その他]

フランス語の文法を自律学習するためのネット教材『*La Grammaire Active du Français*』のURL:

http://www.al.media.kyoto-u.ac.jp/french_call/web/index.html

http://text.asahipress.com/text-web/france/active_call/index.html

(ID、パスワードなしにアクセスできる)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大木 充 (OHKI MITSURU)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号: 60129947

(2) 研究分担者

田地野 彰 (TAJINO AKIRA)

京都大学・高等教育研究開発推進センター

研究者番号: 80289264

壇辻 正剛 (DANTSUJI MASATAKE)

京都大学・学術情報メディアセンター・

教授

研究者番号: 10188469

西山 教行 (NISHIYAMA NORIYUKI)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・准教授

授

研究者番号: 30313498

金丸 敏幸 (KANAMARU TOSHIYUKI)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・助教

研究者番号: 70435791

長野 督 (NAGANO KO)

北海道大学・メディア・コミュニケーション学院・教授

院

研究者番号: 30312408

上淵 寿 (UEBUCHI HISASHI)

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号: 20292998

Graziani Jean-François

京都大学・高等教育研究開発推進機構・准

教授

研究者番号: 60538437